

まつど

松戸市立博物館情報誌

MATSUDO MUSEUM

ミュージアム

No.
19

2010年7月



●コレクション紹介

輿こしと天蓋てんがい



今回、紹介する輿と天蓋は、昨年10月に開催した企画展「人生儀礼の世界」で展示した資料で、松戸市八ヶ崎の金谷寺より寄贈を受けました。昭和30年代までは市域の農村では死者を埋めて葬る土葬が行われてきました。輿と天蓋は、土葬がおこなわれていた時代に使われたものです。墓地へ野辺送りするときに、死者を納めた棺を輿で担ぎ、天蓋を棺の上にかざして送りました。八ヶ崎の天蓋は屋根形の木枠四面に隙間無く色紙を飾り付け、枠の四隅から縄を張ってこれを3メートル程の青竹の先に吊り下げたものです。



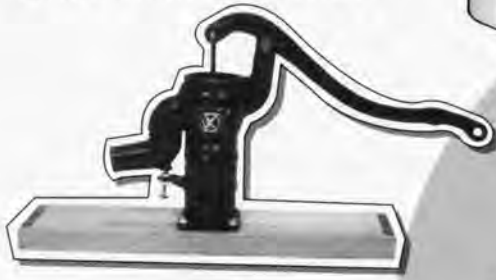
昔の松戸って、どんなだったの？

今の私たちの生活は、どのように形づくられてきたのでしょうか。本展では70～80年ぐらい前の松戸の農家の暮らしを例に、身近な生活の歴史をご紹介します。今の松戸の風景とどう違うかを感じてください。



風呂敷を使ってみよう!

風呂敷って、実はとっても便利なもの。いろんなつみ方を覚えるチャンス!



学習資料展 昔の暮らしを探検

今年はい

たい けん がた てん じ

体験型展示

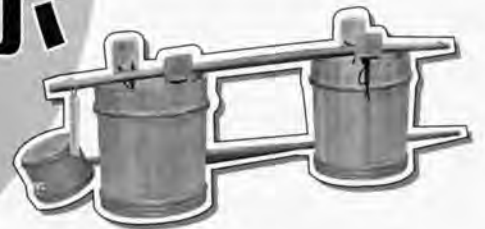
きて!みて!
つかって!

昔のくらは不便?大変?

確かに、天秤棒で水桶を担ぐのはとても大変。でもそのコツを身に付けるのは楽しい、できた時の喜びはきっと大きい。不便で大変なことの中にも楽しいことはいっぱいあるのです。

ポンプで水をくんでみよう!

「どこかで見ることがある」という人も、「懐かしい!」という人も、みなさんどうぞ。



「見る」から「使ってみる」展示へ。

今回のキーワードはズバリ「体験」。子どもたちが昔の暮らしを直に感じられるように、会期中の毎週土曜日の午後、体験教室を開催します。「風呂敷を使ってみよう」、「水桶をかついでみよう」、「ポンプで水をくんでみよう」など。大人の方もどうぞ。



水桶をかついでみよう!

生活には欠かせない、大切な仕事だった水くみ。上手に運べるかな。

平成22年度 学習資料展



2010.7/31(土)→9/26(日) 観覧無料

■開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)
■会期中の休館日 毎週月曜日(ただし、9/20(月)は開館し、9/21(火)は休館)

今だから、子どもたちに伝えたい。

道具が進化し、何でも簡単にできてしまう現代。けれど、手間をかけてこそ得られる心の豊かさや生きる知恵、生活の技などもあるはず。現在の私たちが失ってしまったものの大切さを、展示を通して、子どもたちと考えてみてください。



常設展示室で新たな「発見」と「感動」を。

「展示解説シート」と「単眼鏡」を設置しました。

当館では本年4月より常設展示室にささやかな工夫を加えてみました。それは16種類の「展示解説シート」と模型展示コーナーに設置した単眼鏡です。「解説シート」は解説パネルの補助として、学校の自由研究のメモとして活用していただきたいと思います。「縄文のムラ」「松戸の河岸」「下谷・谷津・台」模型は、学芸員が時間をかけて練り上げたシナリオをもとに細部にわたって復元した模型です。今回備え付けた単眼鏡で模型を見ると、縄文人や河岸の人々の仕草や表情、河岸に集積された品物の数々、高瀬船の船具、民家の様子がよりくっきりと浮かび上がります。初めての方もリピーターの方も、常設展示室で新たな「発見」と「感動」を味わっていただければ幸いです。



五香六実のあけぼの

学芸員 柏木 一朗

松戸の近代史を調査する場合、史料は松戸にあるとは限りません。例えば今春、私が発表した研究ノート「明治初年小金原開墾事業と五香六実の人々」（『松戸市立博物館紀要第17号』）は、主に東京都公文書館や三井文庫（東京都中野区）が所蔵する史料を利用し、明治2年から3年（1869～70）にかけて東京から現在の松戸市五香六実地区に移住した人々を紹介しました。五香六実に移住した開墾者の名簿を分析した結果、移住者は幼い子供を抱えた家族が中心だったことがわかりました。彼らは幕府直轄の牧（野馬の放牧場、小金牧と佐倉牧、五香六実は小金牧の一部）だった下総台地に入植し、新たな人生を

スタートさせました。旗本の家来や幕臣もいましたが、その大多数は庶民でした。五香への入植は136戸、503人、平均家族数は3.7人で戸主の平均年齢は41歳でした。六実への入植は132戸、517人、平均家族数は3.9人で戸主の平均年齢は45歳でした。核家族が大半を占め、祖父母を伴う者や独身者は少数でした。なれない農作業で体をこわす者や脱村する者もいましたが土地の払い下げを受けて農夫として自立する者も大勢いました。明治4年（1871）、廃藩置県により東京が文字通り日本の首都となると近代的な街づくりが始まり多くの雇用が生まれました。そのため開墾者の中には土地を手放し東京へと戻る者もあられました。それから100年後の高度経済成長の時代、五香六実が東京近郊の住宅地として脚光を浴び多くの人々が移住してきました。五香六実は、歴史的に見て東京と非常に深い関係がある地域と言ってよいでしょう。

アンケートボックスの中の声

今回は以下のようなご意見をいただきましたので、お答えいたします。

〈資料展「下総史料館寄贈資料展」のアンケートより〉

過去に下総史料館を拝見しました。資料はもっと多かったように思いましたが？（80才以上・男性）

今後、多くの資料が整理され、展示されることを願う。（60代・男性）

★他にも同様のご意見ご感想が、数通寄せられています。

博物館より：本資料展は平成22年3月6日～6月6日にかけて開催しましたが、「展示資料の数が少ない」、「もっと大規模な展示を」とのご意見・ご要望を多くいただきました。

下総史料館は、故湯浅喜代治氏が松戸市紙敷に私財を投じて設立した博物館であり、そこでは長年かけて収集した考古学や郷土史に関する資料の展示・普及活動が行われていました。史料館が収蔵していた考古・歴史・民俗資料は寄贈を受けて、現在、当館に保管されています。本資料展ではその一部を公開させていただきました。

さらに今秋、当館では企画展「湯浅喜代治考古コレクション—夢を追った70年—」を開催いたします。展示室では湯浅氏と

下総史料館のあゆみを紹介するとともに、縄文土器をはじめとする原始・古代の考古コレクションから約500点を展示します。その際、コレクションのみに限らず、松戸市内の遺跡から出土した資料や関東各地からの借用資料などを合わせて展示することにより、本コレクションのもつ特徴や意義について理解を深めていただけたらと思います。



平成22年度 企画展

「湯浅喜代治
考古コレクション
—夢を追った70年—」

2010.10/9[土]→11/28[日]



奥山儀八郎氏制作、
下総史料館の看板。
本企画展にてご覧
になれます。

今後とも皆様のご意見を参考に、一層親しまれる博物館へと努力してまいります。ご協力お願いいたします。

■ 展示のご案内

学習資料展「昔の暮らし探検」 7/31(土)～9/26(日)
 詳細は2ページをご覧ください。

企画展「湯浅喜代治考古コレクション—夢を追った70年—」
 10/9(土)～11/28(日)
 松戸市紙敷在住の故湯浅喜代治氏が約60年にわたり収集してきた多様な考古遺物をご紹介します。他館からの借用資料をあわせて展示し、湯浅コレクションの特徴をうきほりにします。

資料展「新収蔵資料展」 平成23年1/29(土)～3/27(日)
 平成17年以降に当館が購入および寄贈を受けた資料のうち、これまで公開したことがない資料を中心に展示します。

ガイドツアー（総合展示解説）

毎日10:00～・14:00～（60分間）◎参加者は観覧料が必要です。常設展示室「人類の登場」から「都市へのあゆみ」までを展示解説員が解説。

エントランス展示

当館所蔵のガンダーラ仏教美術品を中心とするコレクションを2～3ヶ月ごとに入れ替えて展示。
 7/1(木)～8/31(火)「菩薩半跏像」(1～4世紀 パキスタン)

ミュージアムシアター

①13:15～②15:15～上映(土・日・祝は11:00～も上映)
 歴史・民俗・考古・自然に関する映像を月替わりで上映。上映内容は館内・館外の上映案内や当館ホームページをご覧ください。

■ 学芸員講演会のご案内

当館の学芸員7名が、考古・歴史・民俗の各分野から、日頃の研究成果を発表します。(市立博物館・友の会共催)

- ① 6/19(土) 13:30～15:30 大名華族の住まい～戸定邸探訪～
- ② 7/17(土) 13:00～15:00 小金の日暮玄蕃について
- ③ 10/16(土) 13:00～16:00 中峠遺跡・紙敷遺跡を歩く
- ④ 11/20(土) 13:00～15:00 下総の古墳文化と地域社会
- ⑤ 1/15(土) 13:00～15:00 房総の戦国時代 その3
- ⑥ 2/19(土) 13:00～15:00 絵馬(板絵)と生活
- ⑦ 3/19(土) 13:00～15:00 「あるく」文化を考えるII

★①と②は終了いたしました。
 定員：80名(③は35名)
 申込：不要・当日先着順(③はハガキでのお申し込みが必要です。)
 費用：200円(友の会会員は無料)

- その他の行事につきましては、館内・館外のポスターやチラシ、当館ホームページ等をご覧ください。ハガキでお申し込みが必要な場合は、詳細をご覧になり内容をよくご確認の上ご応募ください。
- ミュージアムシアターでは、音声の聞き取りにくいお客様のために、一部の席にヘッドフォンをご用意しております。係員に声をおかけください。また、講演会開催等で13:15～の上映を中止させていただく場合がありますので、ご確認の上ご来館ください。
- 行事の内容は7/31現在のものです。やむをえず変更する場合がありますので、ご承知おさください。

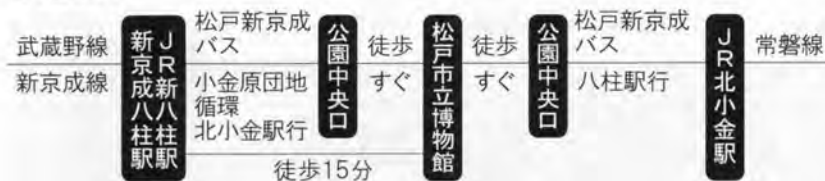
●開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)

●休館日 毎週月曜日(祝・休日にあたるときは翌日休館)、館内整理日(原則として毎月第4金曜日)、燻蒸期間(12月13日～20日)、年末年始(12月28日～1月4日)
 ◎今年度の燻蒸期間は例年と時期が異なりますのでご注意ください。

●常設展観覧料 ()内は20名以上の団体料金。企画展・特別展は別料金です。
 一般/300円(240円) 高大生/150円(100円) 小中生/100円(60円)

〈観覧無料のご案内〉下記に該当する場合は無料で観覧いただけます。
 小・中学生の土曜日の観覧、市内在住で70歳以上の方、市内在住で身体障害者手帳・療育手帳の交付を受けている方とその介護人

●交通案内



来館者専用の駐車場はございません。ご来館の際は公共交通機関をご利用になるか、21世紀の森と広場の有料駐車場をご利用ください。なお、障害者専用の駐車場をご用意しております。詳しくはお問い合わせください。

お知らせ

エントランス展示は9/1(水)～26(日)まで幸田遺跡出土土器(重要文化財)2点を展示します。なおエントランス展示は、企画展「湯浅喜代治考古コレクション」開催中は展示ケース使用のため、12月は全館燻蒸(13日～20日休館)のため展示を休止させていただき、来年1/5(水)より再開いたします。どうぞご期待ください。

